

木材需給動向について (中部地区)

令和3年6月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（中部地区）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・中部地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

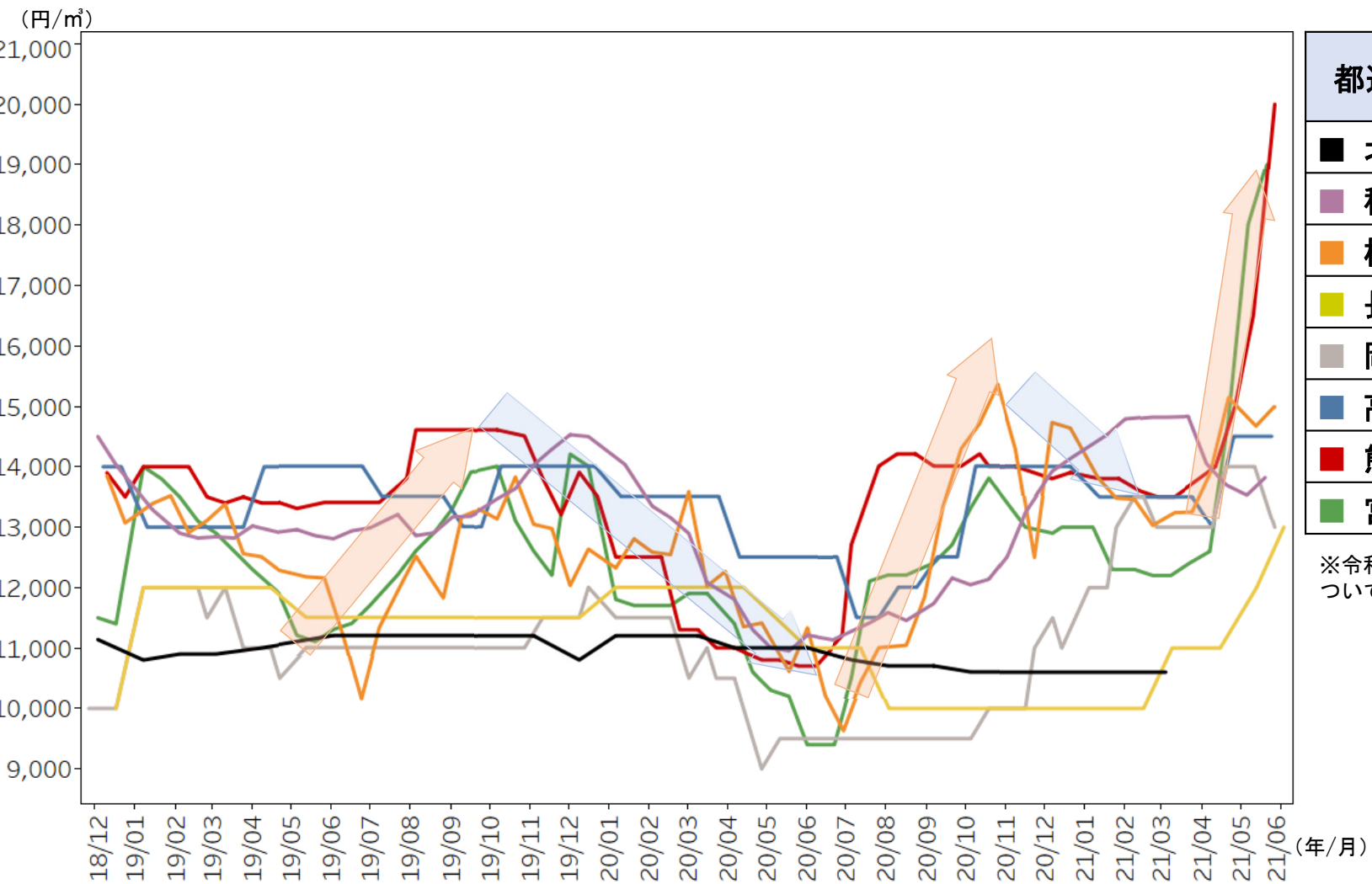
(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 中部地区の住宅着工戸数

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換し、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く、九州地域では価格が高騰している。
- 令和3年5月のスギ原木価格は、前年同期比16%から87%増となっている。



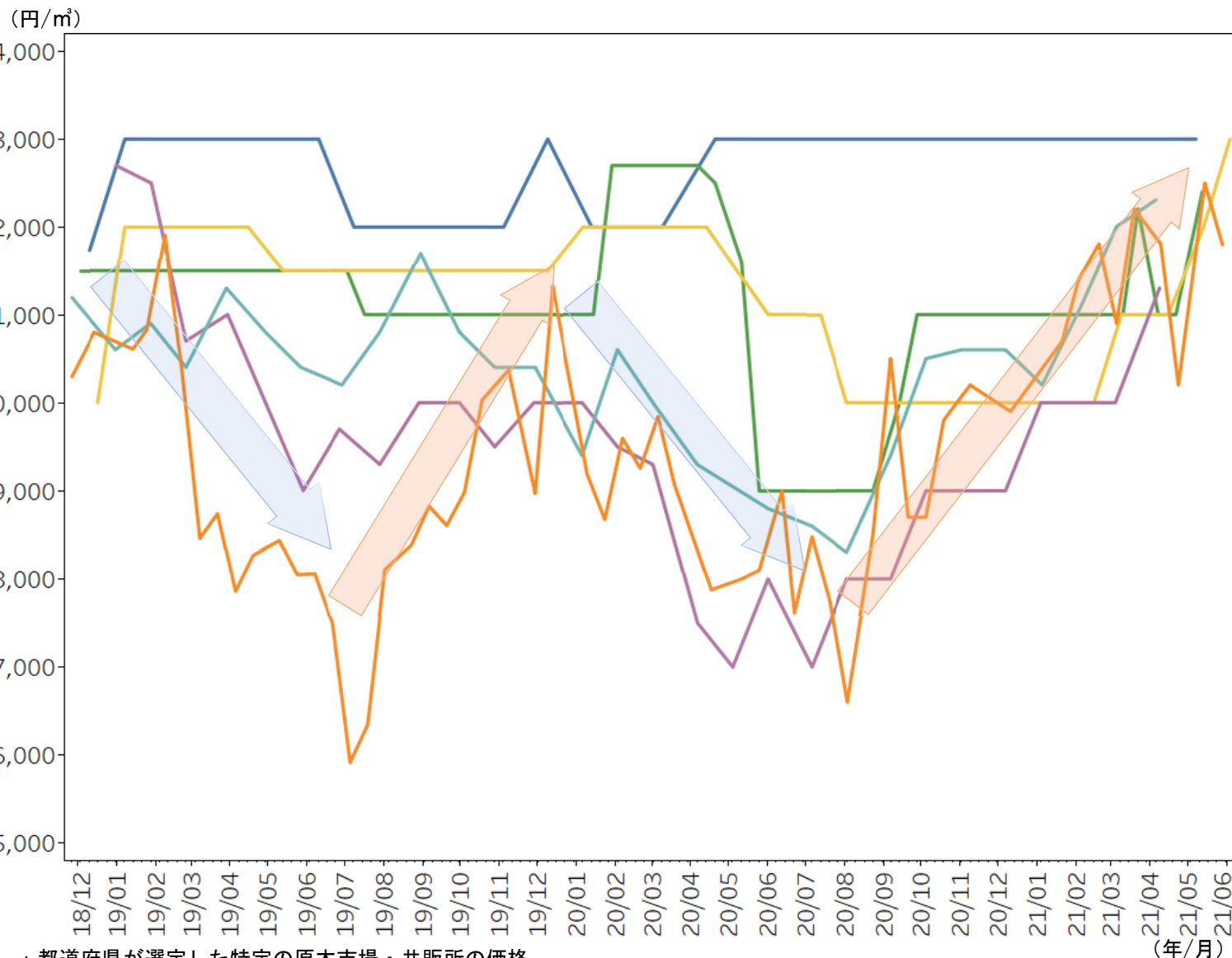
都道府県	R3年 5月※	前年 同期	前年 同期比
北海道	10,600	11,200	-5%
秋田県	13,820	10,950	26%
栃木県	14,990	11,330	32%
長野県	13,000	11,000	18%
岡山県	13,000	9,500	37%
高知県	14,500	12,500	16%
熊本県	20,000	10,700	87%
宮崎県	19,000	10,200	86%

※令和3年5月における直近の値。ただし、北海道については、当該月の値がないため、3月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

イ スギ（中部地区） 径24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換し、例年程度まで回復。
- 令和3年に入ってから、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、そこまでの下落は見られない。
- 令和3年5月のスギ原木価格は、対前年比0%から51%増となっている。



都道府県	R3年 5月※	前年 同期	前年 同期比
富山県	11,800	8,100	46%
石川県	12,300	9,300	32%
福井県	11,300	7,500	51%
長野県	13,000	11,000	18%
岐阜県	12,400	11,600	7%
愛知県	13,000	13,000	0%

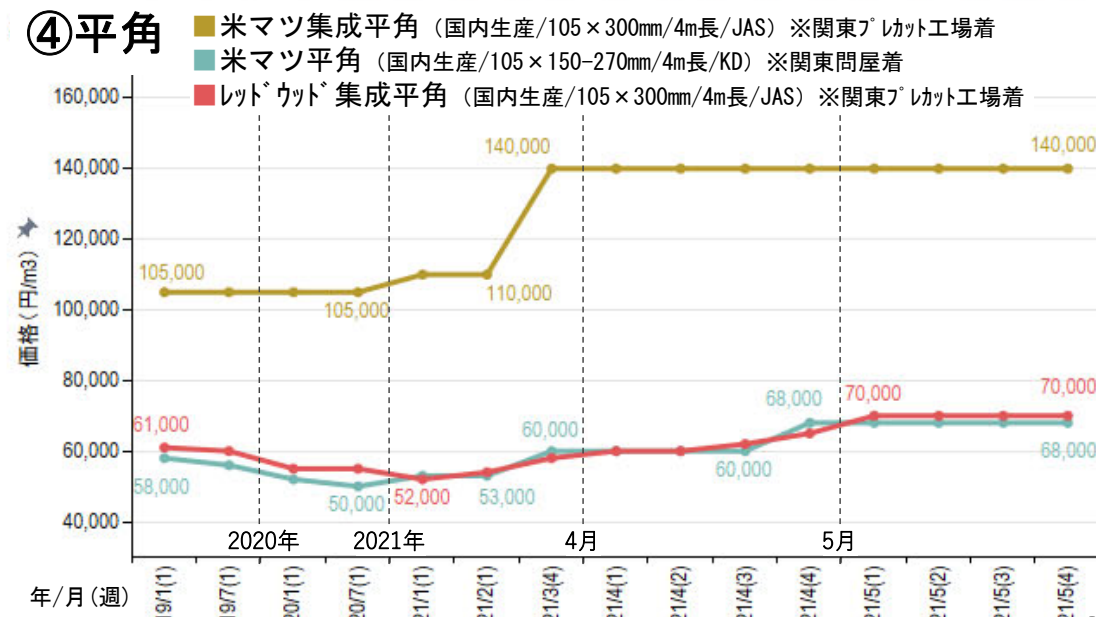
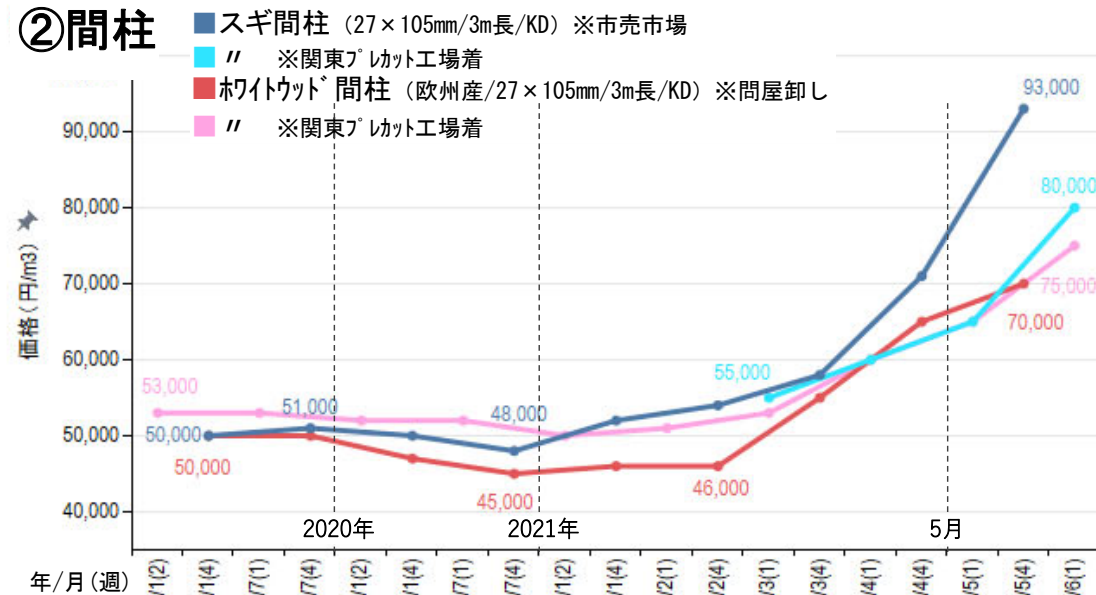
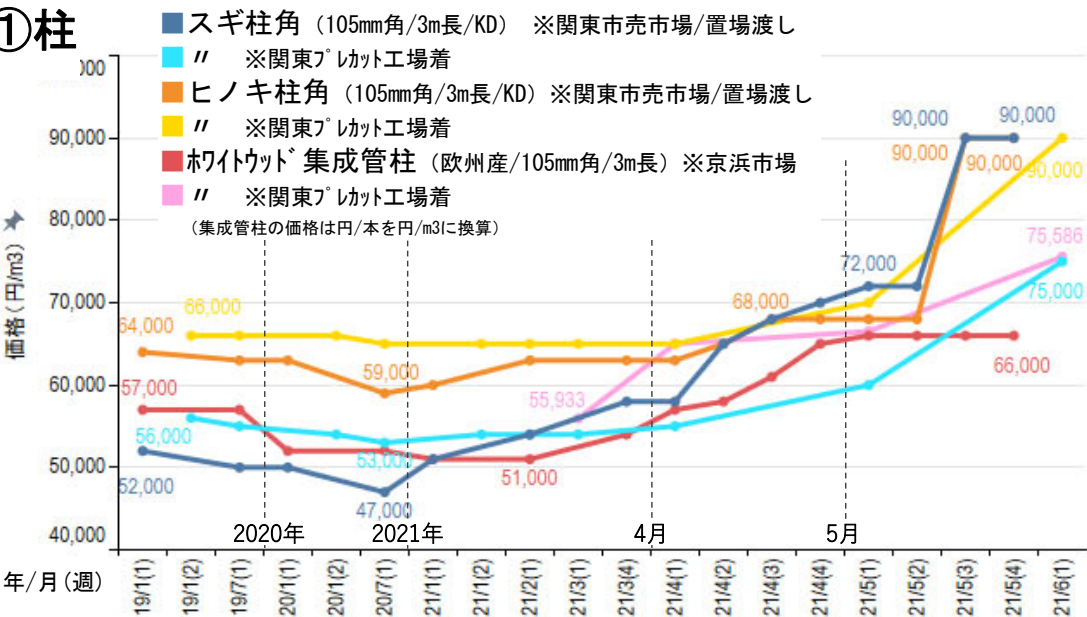
※令和3年5月における直近の値。ただし、石川県、福井県については、当該月の値がないため、4月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

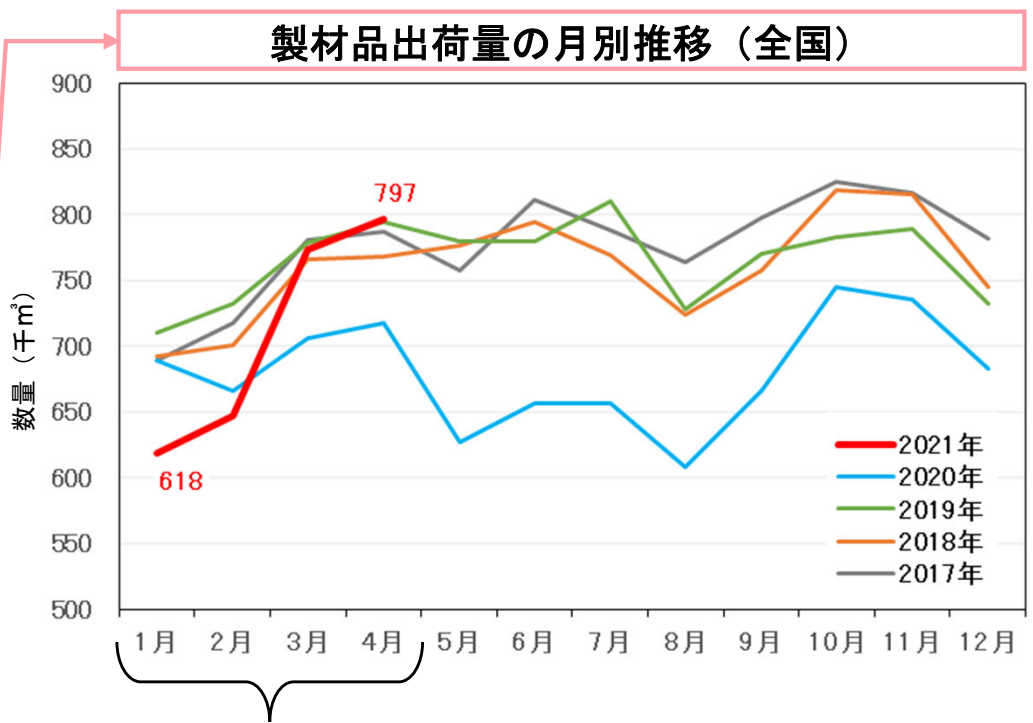
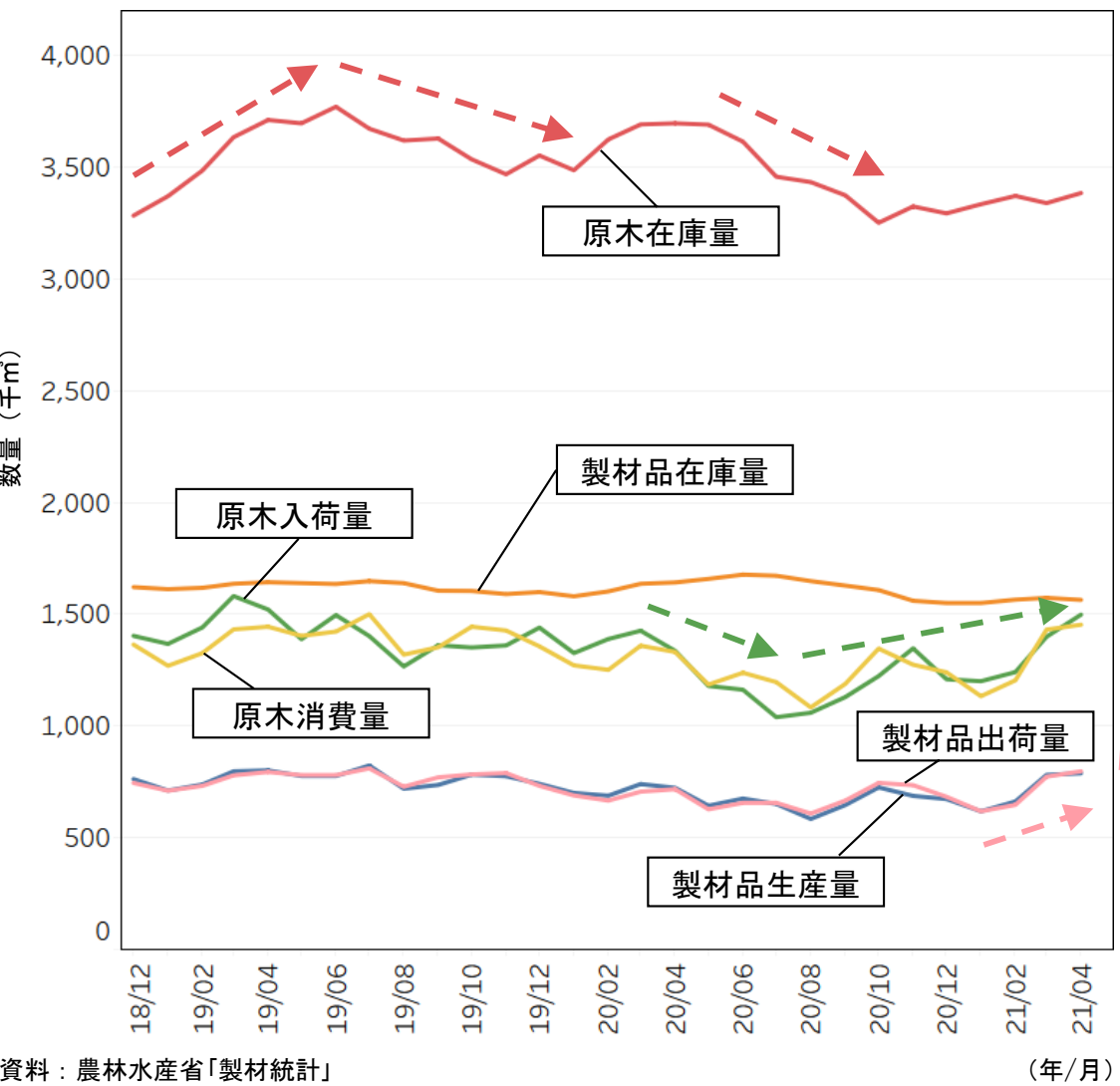


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

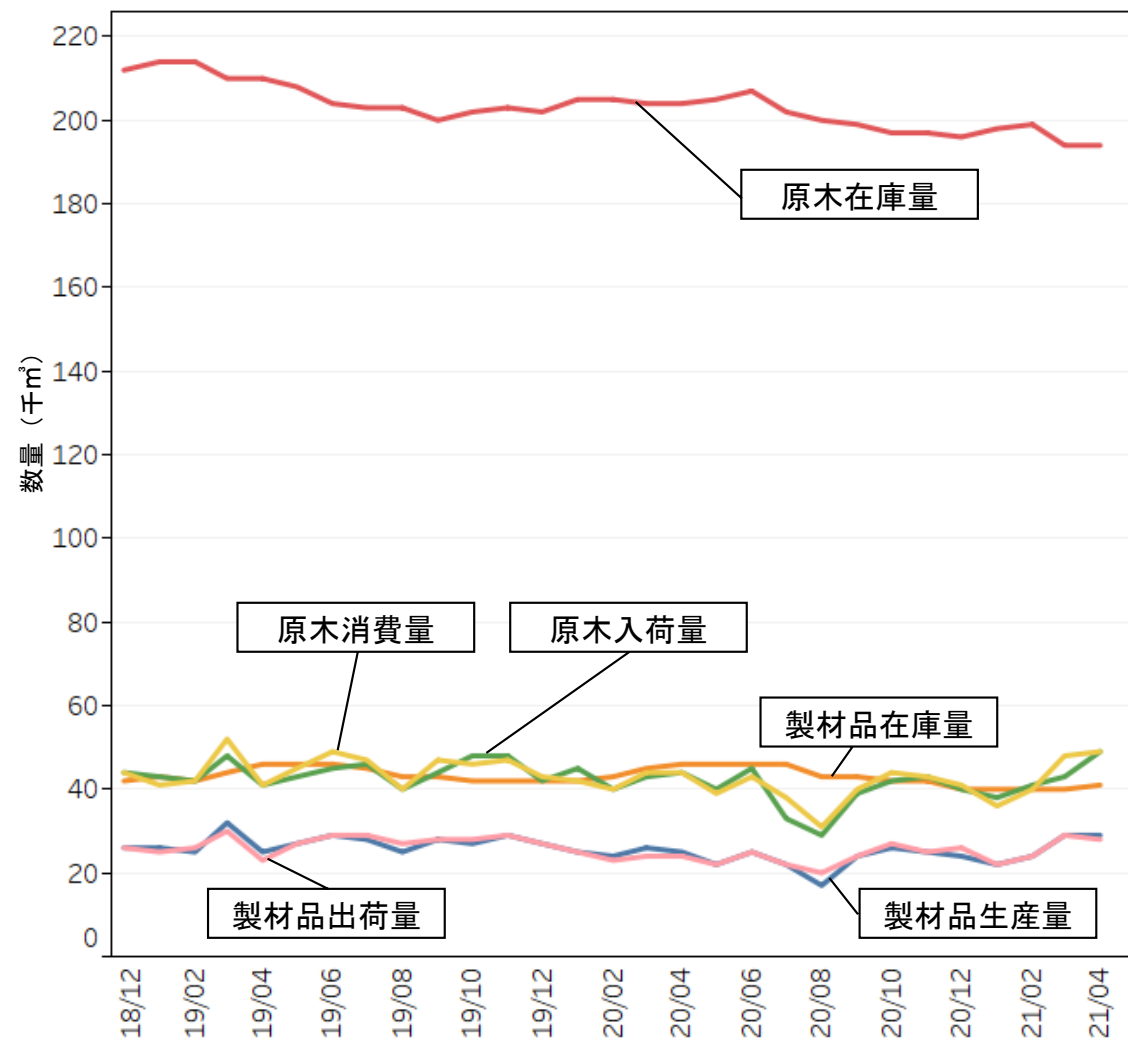
- ・ 製材品の生産量及び出荷量は、令和3年1月から増加傾向。例年1～4月期は増加がみられるが、令和3年同期の出荷量は29%増と近年にない高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- ・ また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- ・ 原木の入荷量及び消費量は、令和3年1月から増加傾向で、4月にはコロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。



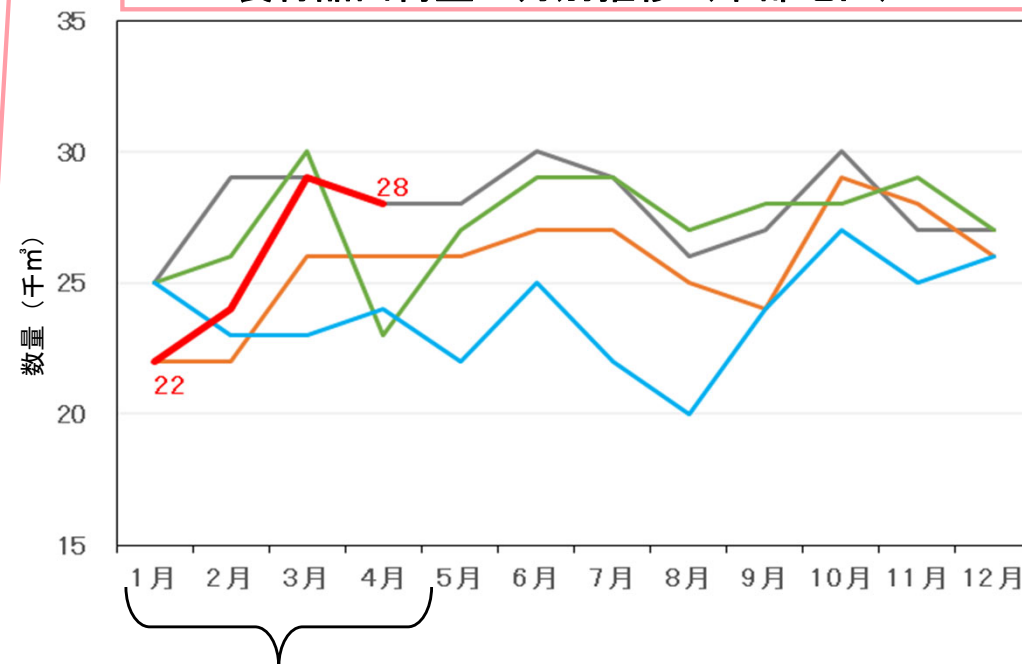
	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	14%	11%	12%	4%	29%
1～4月出荷量 合計 (千m3)	2,975	2,927	3,015	2,778	2,835

(1) 製材（中部地区）

- 中部地区の製材品の生産量及び出荷量については、令和3年2月から増加傾向。前年、前々年1～4月期は減少がみられたが、令和3年同期の出荷量は27%増と増加が見られた。2017年、2018年と比較しても高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年2月から増加傾向で、4月にはコロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。



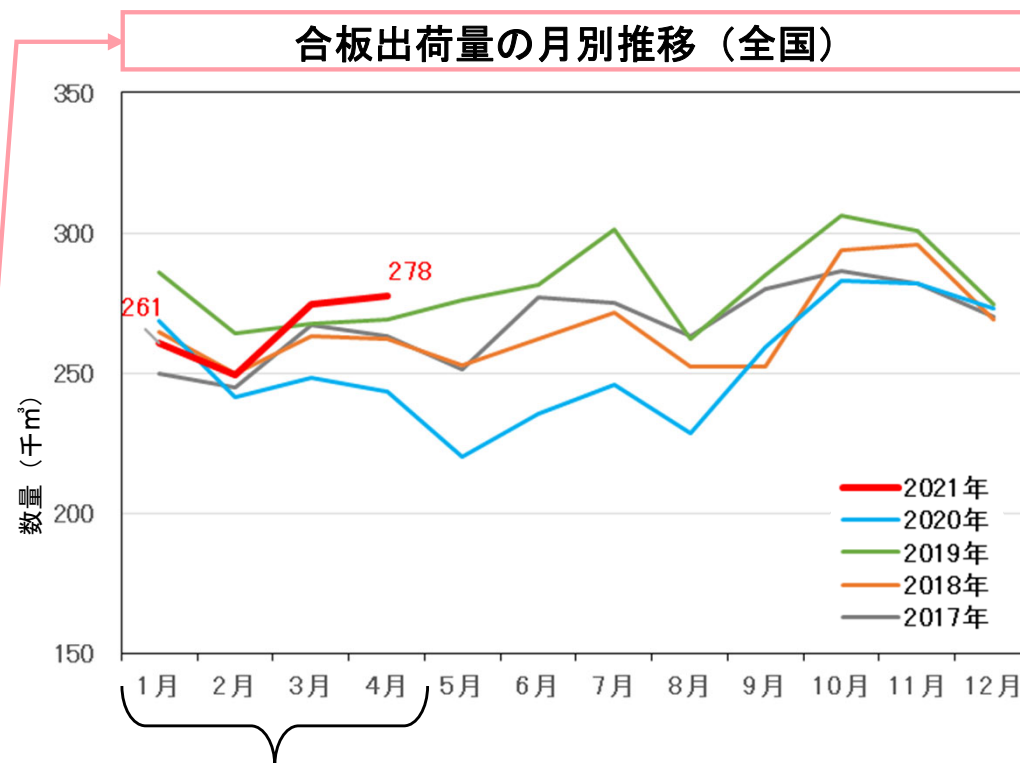
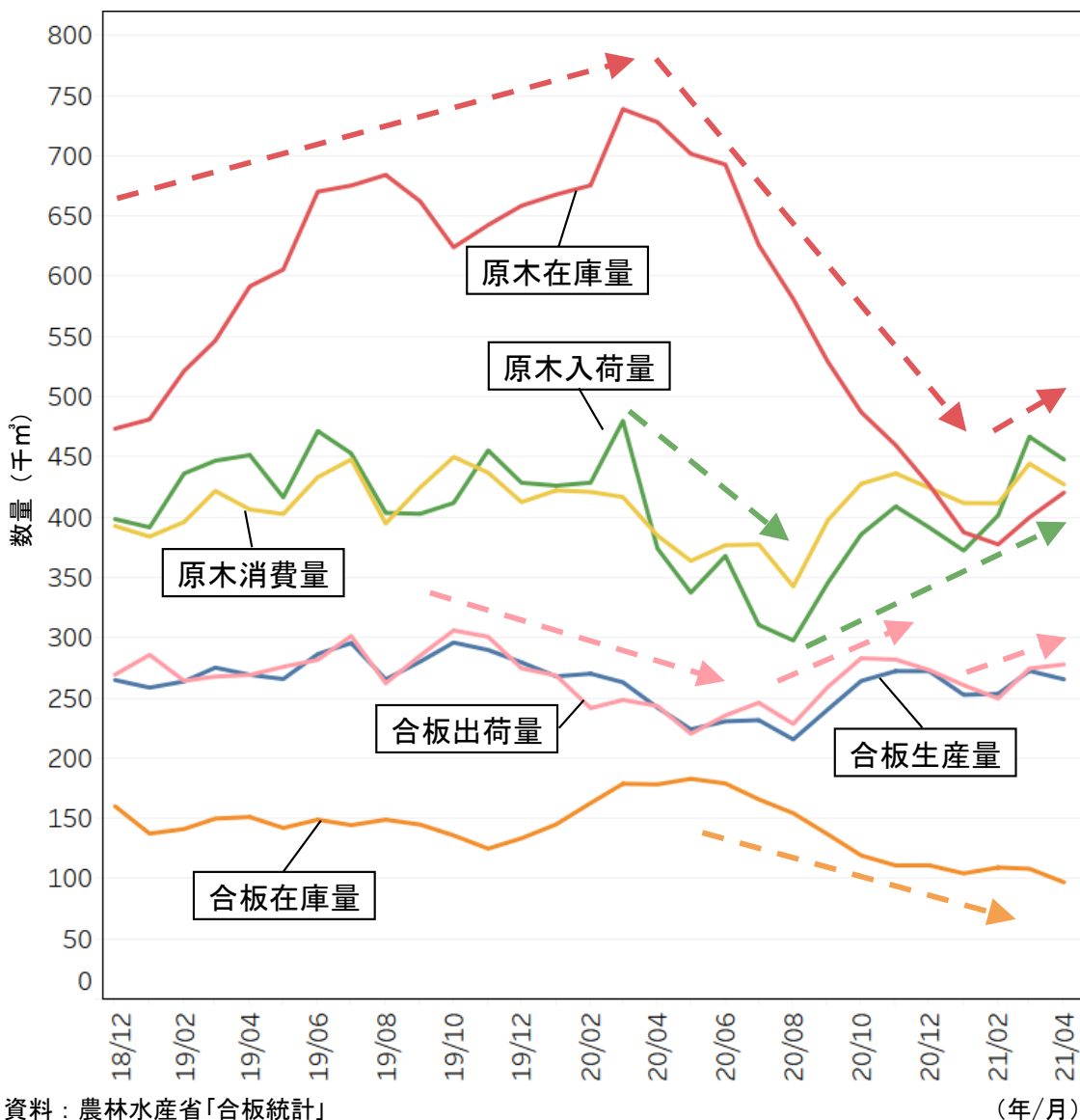
製材品出荷量の月別推移（中部地区）



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	12%	18%	-8%	-4%	27%
1～4月出荷量 合計(千m3)	111	96	104	95	103

(2) 合板（全国）

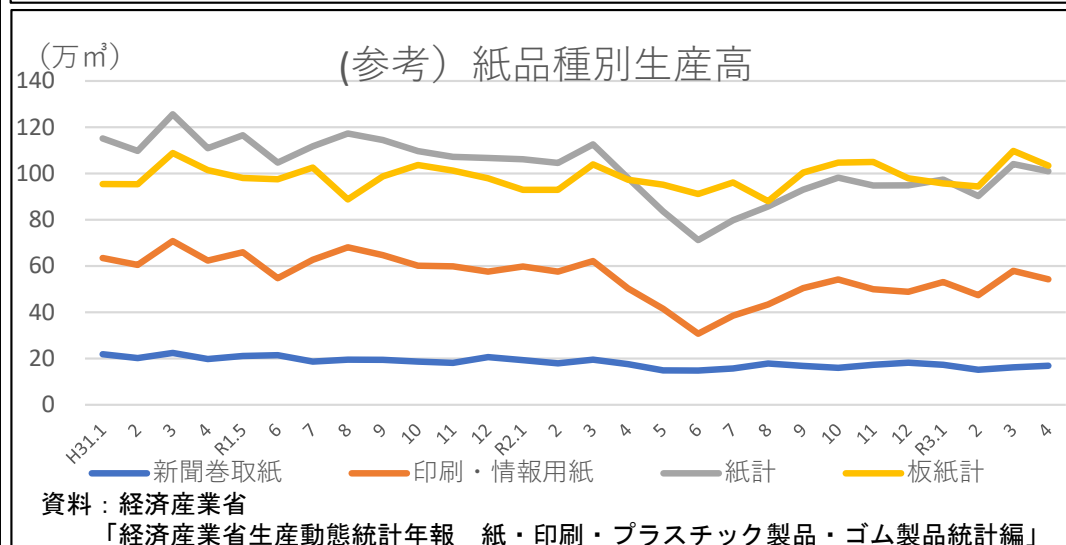
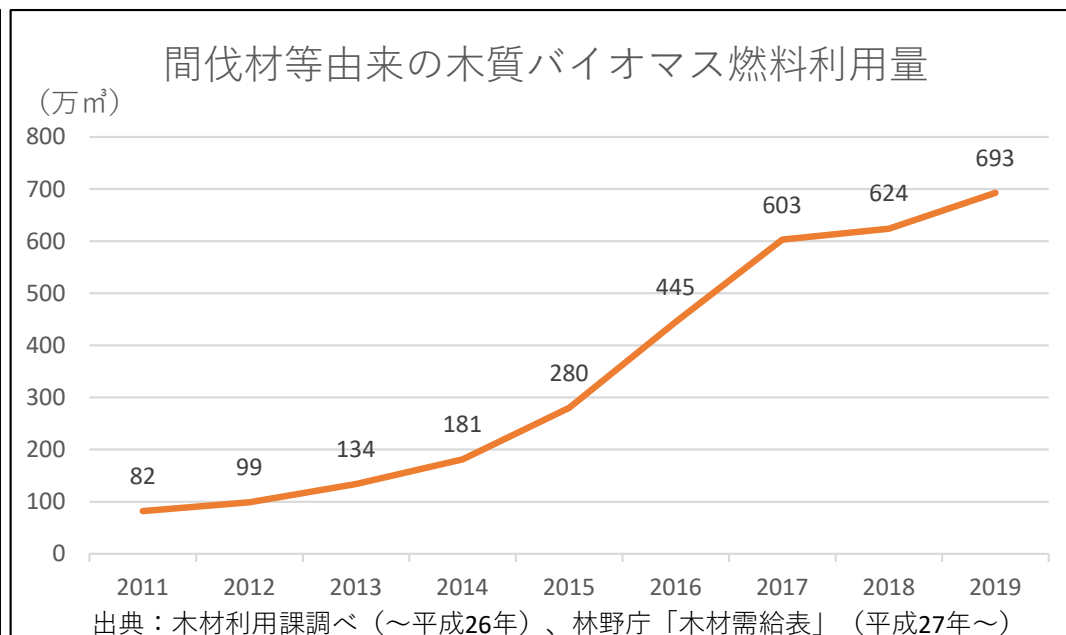
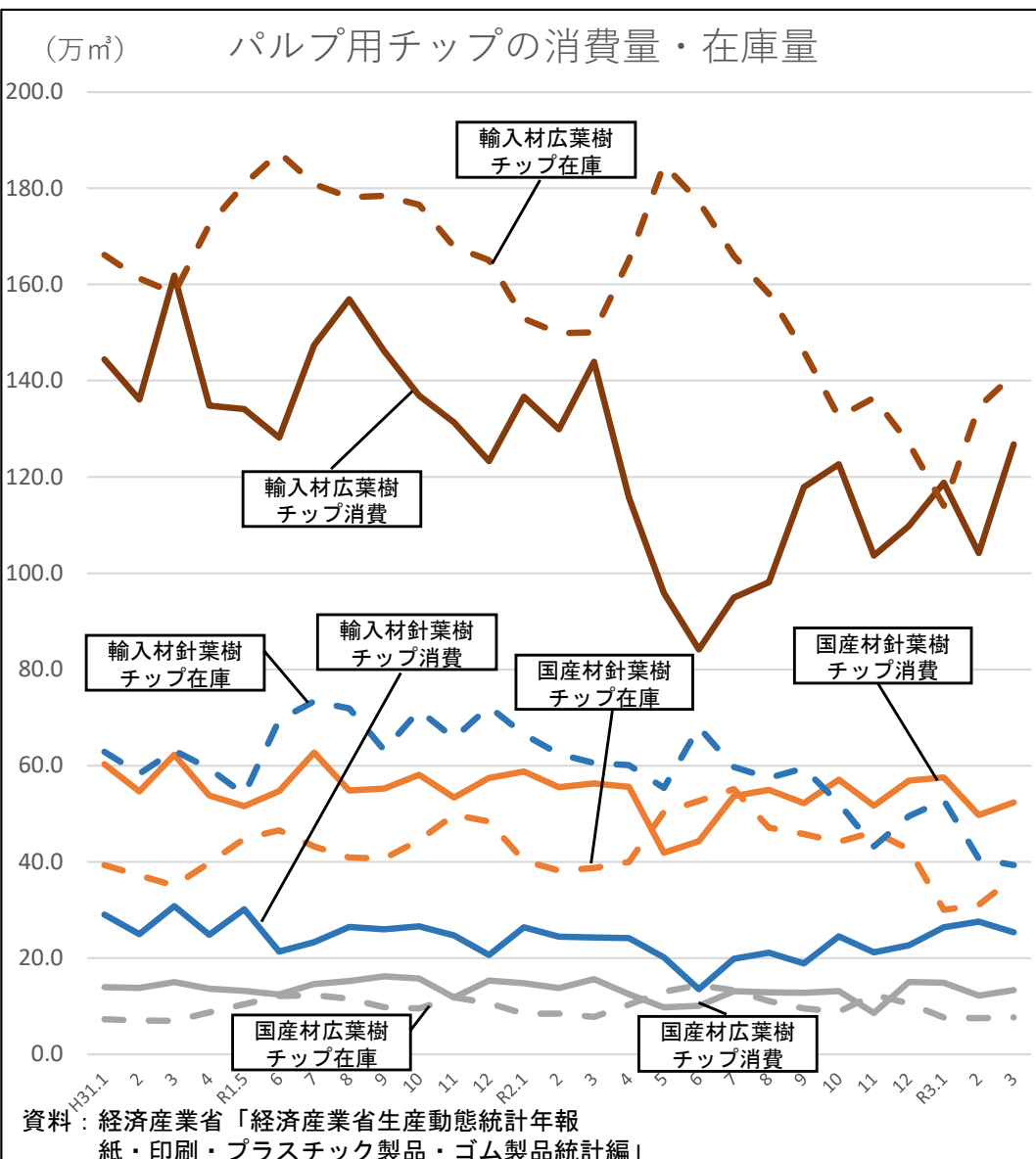
- 合板の生産量及び出荷量は、令和3年2月から増加傾向。1～4月期でみると直近3年間は減少傾向にあったが、令和3年同期の出荷量は7%増と近年にない伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍以前と比較しても高い水準まで回復。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年2月から増加傾向で、4月にやや減少するも、コロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。原木の在庫量は、令和2年4月以降急激に減少していたが、令和3年3月から増加に転じた。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	5%	-1%	-6%	-9%	7%
1～4月出荷量 合計(千m ³)	1,025	1,040	1,087	1,002	1,062

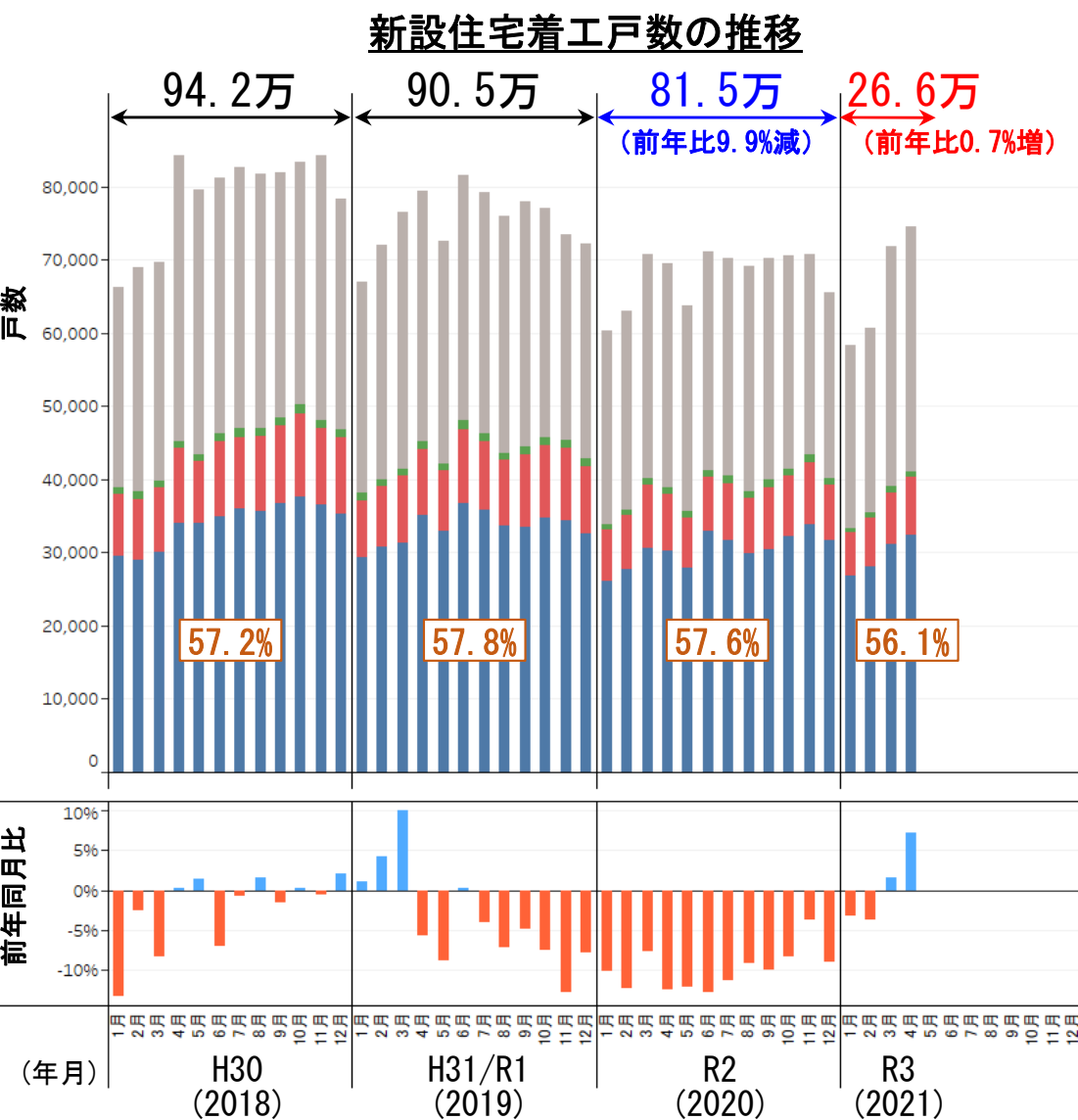
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。

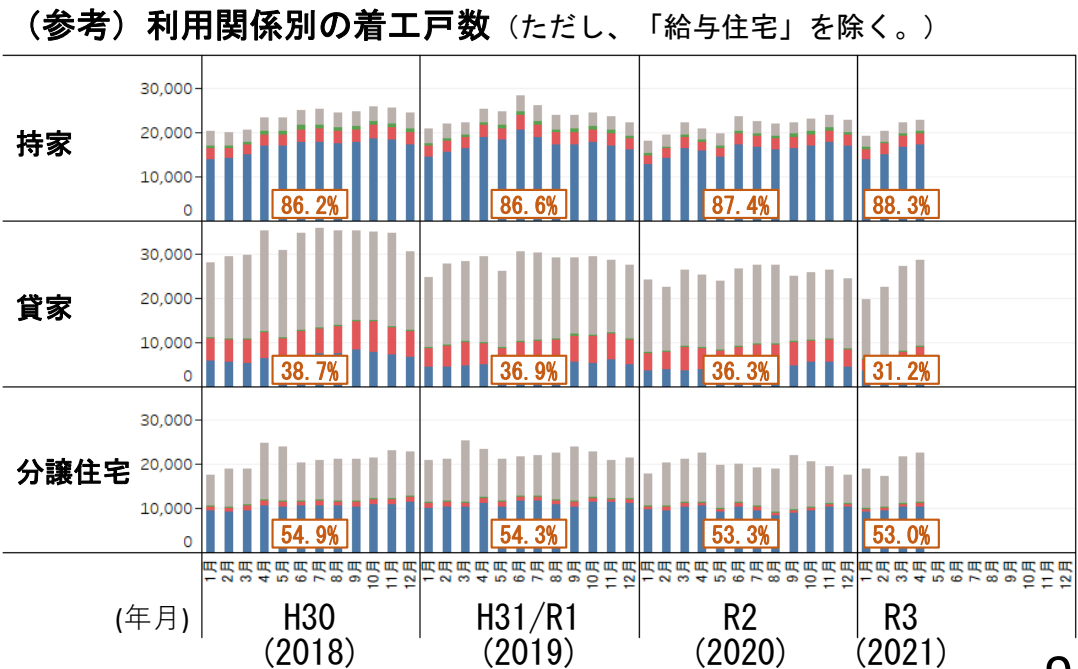


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (平成30年1月～令和3年4月)

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～4月の新設住宅着工戸数は、26.6万戸（前年比0.7%増）、このうち木造住宅は14.9万戸（同0.2%増）。
- 令和2年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※平成21年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）



構造別の着工戸数	R 3 年 1～4 月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	265,520	263,743	0.7%	295,000	-10.0%
■ 非木造	116,608	115,082	1.3%	130,272	-10.5%
■ 木造	148,912	148,661	0.2%	164,728	-9.6%
■ 木造プレハブ	2,943	3,234	-9.0%	3,756	-21.6%
■ 2×4	27,340	30,683	-10.9%	34,280	-20.2%
■ 在来軸組	118,629	114,744	3.4%	126,692	-6.4%
□ 木造率	56.1%	56.4%		55.8%	

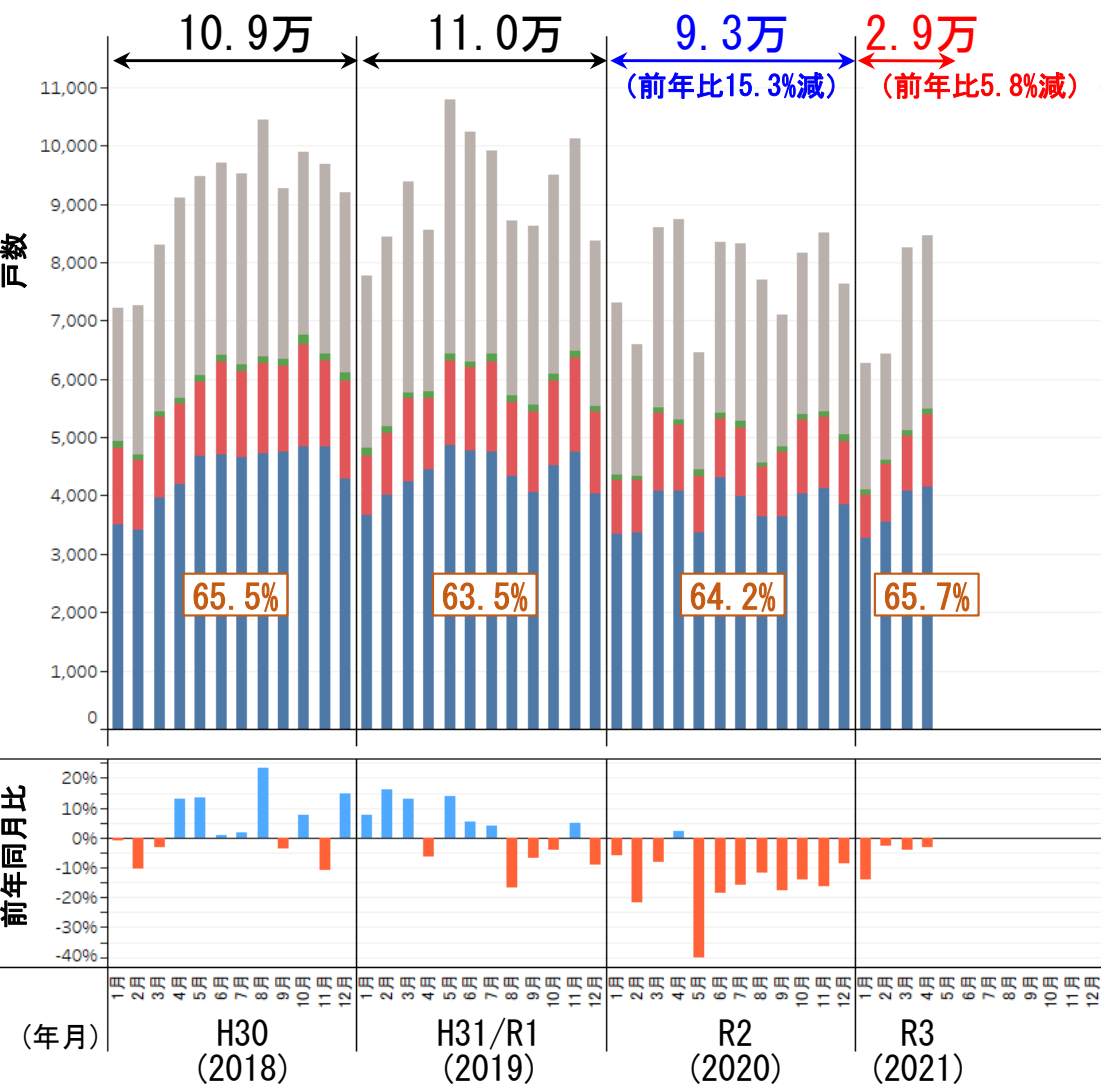


資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 中部地区の住宅着工戸数（平成30年1月～令和3年4月）

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、9.3万戸（前年比15.3%減）、このうち木造住宅は6.0万戸（同14.4%減）。
- 令和3年1～4月の新設住宅着工戸数は、2.9万戸（前年比5.8%減）、このうち木造住宅は1.9万戸（同0.9%減）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	R 3 年 1～4 月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	29,401	31,223	-5.8%	34,119	-13.8%
■ 非木造	10,090	11,740	-14.1%	12,571	-19.7%
木造	19,311	19,483	-0.9%	21,548	-10.4%
■ 木造プレハブ	348	314	10.8%	434	-19.8%
■ 2×4	3,915	4,298	-8.9%	4,763	-17.8%
■ 在来軸組	15,048	14,871	1.2%	16,351	-8.0%
□ 木造率	65.7%	62.4%		63.2%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

